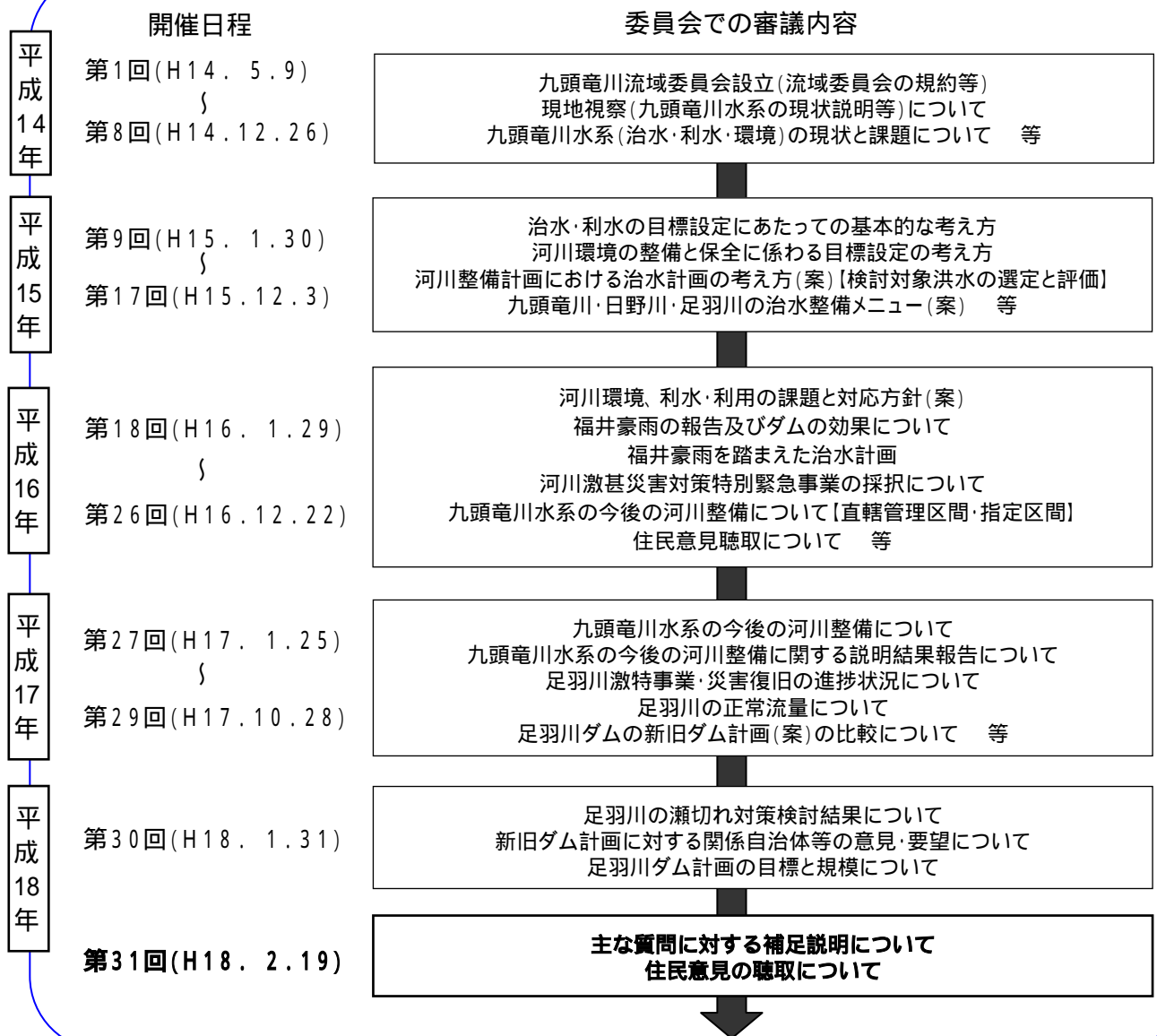


第31回流域委員会の審議骨子

第31回「九頭竜川流域委員会」が平成18年2月19日に福井県国際交流会館で開催されました。



これまでの九頭竜川流域委員会の経緯



第 3 1 回流域委員会の審議骨子

当日は 16 名の委員が参加し、河川管理者から、前回（第 30 回）の委員会が出された「主な質問に対する補足説明」及び「住民意見の聴取について」の説明がなされ、意見交換が行われました。

1. 主な質問に対する補足説明について

「主な質問に対する補足説明」に関して説明された主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) 基本方針と整備計画の河川法における位置づけ
- (2) 工事実施基本計画から河川整備基本方針へ
- (3) ダム規模の設定について
- (4) 環境へ与える影響について

以上の説明をされた後に、次のような質問や意見が出されました。

1. 基本方針の $2,600\text{m}^3/\text{s}$ （天神橋）はあくまでも目安として、「戦後最大の降雨及び実績洪水」で求めた $2,400\text{m}^3/\text{s}$ の方がいいのではないかと？
 $2,400\text{m}^3/\text{s}$ は、おおよそ 100 年に 1 回程度の洪水である。基本方針では、「150 年に 1 回程度の降雨による洪水」を対象とするため、 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ の方が妥当である。
2. 蓄積している観測データは、流量データより雨量データの方が充実しており、現時点では雨量確率による評価の方が精度が高いと思われる。また、流量確率による検証では、福井豪雨のデータも含めて検証する方がいい。
福井豪雨を加味すると、 $2,400\text{m}^3/\text{s}$ は、おおよそ 80 年に 1 回程度の洪水と評価される。
3. 基本方針の $2,600\text{m}^3/\text{s}$ を将来目標とするならば、この流域委員会が開催される前にしっかりと提示しておくべきではなかったのか？
当初より、基本方針については長期計画として説明してきており、整備計画に対しても長期計画を提示しながら流域委員会で審議を進めてきた。
4. 治水安全度はできるだけ上げる方がいいが、経済的な拘束もある。河川整備計画は、経済性や基本方針を見据えながら作成することが重要である。
5. 住民へ説明する際は、足羽川ダムの話だけでなく、将来の全体的な計画もわかるように説明して欲しい。
6. ダム建設事業審議委員会で検討していた天神橋地点の目標流量は？
平成 9 年まで開催していたダム建設事業審議委員会では、150 年に 1 回の洪水を対象とし、天神橋地点 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ を $1,800\text{m}^3/\text{s}$ に調節する $800\text{m}^3/\text{s}$ の施設を検討していた。

第 3 1 回流域委員会の審議骨子

- 7 . 基本方針では、将来的な気候変動も想定して決めることが重要である。今回の基本方針を見据えた「ダム本体 + 1 川導水」の整備は、気候変動に対して危険回避につながると考えられる。
- 8 . ダム事業費については、ダムを整備する前に現状の足羽川下流の資産をどう守るかのマネジメントが必要であり、その結果から考えていくことが重要である。
- 9 . 目標流量の値は戦後最大規模の洪水が発生すれば逐次見直していく必要がある。よって、目標流量の設定は慎重に決めていくべき。
- 1 0 . 基本方針は、工事实施基本計画を後追いしているだけのものではなく、近年の気候変動を基に見直し、検証を行っている。
- 1 1 . 基本方針の目標に向けて段階的に整備していく中で、ダム建設は、環境や地域に対する負荷が大きいため、整備するかしないかの判断が必要となる。
- 1 2 . 流域委員会では、今後の河川整備に対して何らかの結論を出す必要性があるのか？
流域委員会は、多数決もって結論を出すという場ではない。
- 1 3 . ダムを建設した後も将来の世代にどれだけ良い環境を残せるかを考えることが重要である。
- 1 4 . 環境影響評価を実施する場合、事前に環境への影響を予測することが重要である。ダム建設をした場合、事前にどれだけ環境への影響を考えているのか？
「一時的な湛水部の出現による影響」、「導水路トンネルによる地下水への影響」、「分水施設下流河川の環境変化」等が想定される。
- 1 5 . 環境への影響は、科学的に事前に予測できない事態もある。影響が出た場合、すばやい対応をするためにもモニタリングが重要となる。



第 3 1 回流域委員会の審議状況

第3 1 回流域委員会の審議骨子

- 16 . 整備計画の中で、環境影響評価の実施、モニタリングの実施の記載をお願いしたい。
- 17 . 近年、集中豪雨が多発している現状を考えると、基本方針の目標流量 $2600\text{m}^3/\text{s}$ は十分というよりも、必ず必要だと思う。
- 18 . 命を守るためにダムをつくるが、ダムをつくった場合でもどれくらいの環境が守られ、地域の文化が維持できていくのかを明確にすることが重要である。
- 19 . 自然再生を行うにあたっては、仮説・目標を立て、それを検証していくためにモニタリングを実施していくことが重要。今後は、自然再生推進法精神により工事を進めていくことがこれからのダム建設の一つのあり方と思う。
- 20 . 安全度については、150年に1回程度でも安心できるわけではない。被害を最小限に抑えられる対策も併せて考えることが重要である。
- 21 . 住民意見の聴取では、ダム建設に伴うコストや課題、長期的な展望等をきちんと住民に説明して欲しい。
- 22 . 近年の集中豪雨を見ていると今までシミュレーションできなかった雨が降る恐れもある。 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ を超過する場合も考慮に入れ、柔軟な対応ができるように考えておくことが重要である。
- 23 . 基本方針にすり合わせていくには、積み木のような形で実施していく方法と、将来を見越してあるレールを敷いて順番に仕上げていく方法がある。経済面・治水面からみてどちらがいいかは河川管理者で判断し実施して欲しい。
- 24 . ダムが効果を発揮する時期はいつ頃か？
おおむね20年後ぐらいを想定している。ダム整備は、環境影響評価から入り、用地補償や工事用道路等を整備した後、ダム本体の施工となるので時間を要する。
- 25 . 河川管理者は、今まで流域委員会で審議してきた内容を十分に踏まえ、河川整備計画（原案）を作成していただきたい。

環境保全に対する基本的な考え方（案）

ダム事業による環境への影響最小限に抑えるため、法に基づく環境影響評価を実施し、事業計画(案)の策定にあたっては、環境影響評価の段階において重大な影響が認められる場合には事業計画(案)へフィードバックし、再検討を行っていきます。

また、事業・管理段階に移行した後も、モニタリング調査を実施していくこととします。

現状で考えられる環境への影響

- ・ 一時的な湛水部の出現による影響
(濁水・動植物 等)
- ・ 導水路トンネルによる地下水への影響
- ・ 分水施設下流河川の環境変化
(土砂供給・河床攪乱 等)

第31回流域委員会の審議骨子

2. 住民意見の聴取について

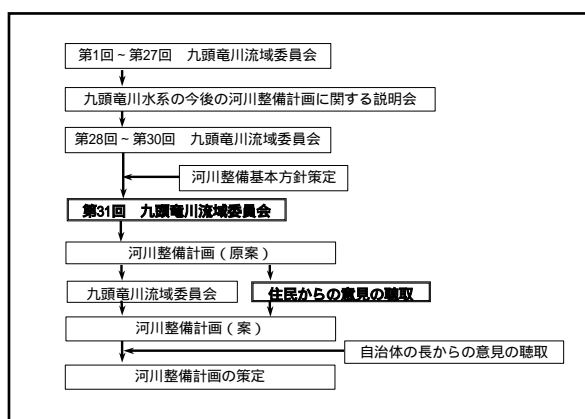
「住民意見の聴取について」に関して説明された主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) 「九頭竜川水系河川整備計画」策定へ向けての今後の流れ
- (2) 委員会での審議経過
- (3) 委員会で出された主な意見
- (4) 住民意見聴取 - 情報発信（周知）・意見聴取 -
- (5) 住民意見聴取の流れ
- (6) 開催場所

以上の説明をされた後に、次のような質問や意見が出されました。

26. 開催場所については、足羽川ダムの関係者の人たちがよく集まれる場所も追加した方がいいのではないか。
27. 住民意見の聴取では、人と人とが顔をつき合わせて話す機会を増やすことが最も効果的である。河川管理者は積極的にそのような機会をつくっていくべき。
開催場所については、増やすということで検討する。
28. 住民意見の聴取は、住民から意見を聴く時間をできるだけ増やすように、説明時間との配分をしっかりと考えて実施して欲しい。

「九頭竜川水系河川整備計画」策定へ向けての今後の流れ



第31回流域委員会の審議状況